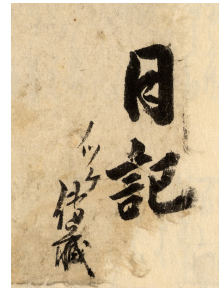


「加賀家文書」の調査研究から～その 31

## 史料「日記 ノツケ 伝蔵」

～根室場所のアイヌを天然痘から救った貴重な記録から～



### 安政六年正月となる(子モロ(根室)の正月)

正月元日(年中行事)鉄蔵(通辞)・伴二郎(帳役)・私(通辞勤方)たちが三役として麻上下紋付の服装で役所のそれぞれの部屋へ御年始の御礼をしました。アイヌたちは 11 日まで御礼はありません。役所からも何の申し渡りもありません。私は(子モロでの)初めての正月(安政 5 年はシベツで正月を迎えたようです。鉄蔵が支配人代を勤めていました。)

同 2 日御儀式(船乗初祝い)が終って、屋頃、クスリ(釧路)の番人と役アイヌ一人とセカチ一人を連れてヲシタエ(シベツで生まれ育ち結婚したが、食料を採取中に釧路に連れて行かれ、年若い男と結婚させられ、耐え切れずにシベツへ戻ってきていた。詳細は「加賀家文書」にあります。)を受け取りに来た。

同 3 日御役所の役人が御そろいの上で、番人・役アイヌに引き渡された。

同 4 日井上様(種痘医師、暮から正月の 3 日までの動向は不明)子モロ御出立、源六殿付添い。

5、6 日(記載なし)

7 日メナシから年始人、栄左衛門殿・専太郎・金太郎着く。

8、9、10 日(記載なし)

11 日御用開き、三役上下、仁助(庄屋後見-ベツカイ)・陣平(惣年寄-子モロ)・重助(名主-クン子ベツ)(この 3 人は差添土人長助-ベツカイ 25 歳・作蔵-ウエンヘツ 25 歳、伝蔵差添通辞 45 歳とともに「土人御目見」に 3 月 2 日から子モロで風待をし、箱館へ行く)上下、そのほかの役アイヌは羽織。

12、13、14 日(記載なし)

15 日御用済になり、栄左衛門殿と一緒に発ち、ホロモシリで一宿する。

16 日夕方御会所から御用がありましたので、伝蔵・栄左衛門は手紙が着いたらすぐに帰れとのことで、2 人が戻ろうとしているところへ、井上様の付添いでアッケシへ行っていた源六殿が帰り、「一兩日中に大西様(アッケシ詰調役下役大西栄之助)が井上様と一緒に種痘をさせるために来られる。」との御案内状を持参したので、3 人連れだって御会所へ夜中に着く。間もなく、(役所の)金井様から呼び出され参りましたところ、「土人名前書上」(「井上元長様江種痘土人名前書」)に間違いがあったので、お叱りを受け、夜の 12 時過ぎまでの間に 5 度ほども呼ばれ、「寒気が甚だしく西玉風(西北の風)が強く」老体の私なので甚だ難儀を致しました。(その 29「子モロ土人種痘之儀二付申上候書付」に依ると、金井清三郎が鉄蔵の言い分を聞いて『三か所のアイヌ『子モロ・ホニライ・ホロモシリ』は種痘を拒んでいるので、来ることはない。』などという書状が出されていました。)

17 日金井様・佐伯様へ鉄蔵殿が付添って、ホロモシリへ出役し少しずつ尋ねたところ、同所のアイヌたちは「種痘を受けたいとの事」しかし、ハナサキと子モロのアイヌからは同意を得られないまま、夜の 10 時頃に霧の中を苦労して戻られました。

18 日金井様に言い付けられて、「井上様主従付添い中の落ち度」を書上げるよう申し付けられましたので、甚だ迷惑ではありましたが書上げました。(伝蔵・現場の番人たちは御上の言い付けを守ろうと必至であったことが伺えます。)

『恐れ乍見覚えている事を申し上げます』（長文につき概略だけ）井上元長様御上下二人種痘御用として、11月24日からメナシ七ヶ番家（イチャニ・チウルエ・クン子ヘツ・サキムイ・ウエンベツ・シベツ・チャシコツ）とヘツカイ、それから会所元（子モロ）まで数日御付添いし、通弁も申し上げてきましたが、「不思議な行い等は見受けませんでした、いかがな事と思うことは」

- ① シヘツ番家で、御家来の部屋で昼夜ともに種土人や雑病治療のためと言って、男女2,3人ずつに薬を与えているようでした。
- ② あま酒やにごり酒（濁酒）などを飲ませていました。
- ③ 土人共、私共の目を盗んで、居間に入出入りしていました。
- ④ 「かよ」と言うメノコが昼夜御家来の部屋へ出入りしていました。

26日 ヘツカイでは、

- ① 人足メノコふめ腹痛になり、薬を貰っていました。
- ② 雑病治療

28日 ホロモシリでは

- ① 酒壺升入徳利を持参して、土人「ユ-カリ軍記」を聞くといい、しばらくして帰りました。子モロでは、種土人共勝手に御家来の居間へ出入りしていました。又、ある晩は、私のところまでかん鍋を借りにきました。（この見覚え書が金井様へ出されたものと考えられるが、その扱いを知り得る文書は手元にはありません。）

『日記ノツケ伝蔵』につづられている「日記」は、2月3日になっていて、この間のことはわかりません。前出の「子モロ土人種痘之儀ニ付申上候書付」や「井上元長（びんちょう）様江種痘土人名前書」によると、アッケシから大西様と種痘医師の井上様が来られ、子モロ会所元・ホノライ・ホロモシリでの種痘も終わりました。（安政3年に箱館奉行が「アイヌを役土人または平土人と呼称」すべきことを通達した。以来、「旧土人保護法」などと使われました。本文で「土人」と表記しているのは、原文にそって使っているだけで、現代語訳では「アイヌ=人間」です。（文責 調査員 戸田 峯雄）

## 勾玉づくりに挑戦しました。

### —サマースクール—

8月18日（月）に郷土資料館サマースクールを開催しました。「むかし・むかしのべつかい」と題して、古代の別海町の様子をスライドや展示している土器・石器・縄文人骨などの遺物を見ながら説明を聞きました。

また、古代の装飾品「勾玉（まがたま）づくり」にも挑戦し、約2時間かけて滑石という石を削ったり、磨いたりして縄文人にも負けないくらいの立派な勾玉を作りました。



別海町郷土資料館だより No.110

発行日 平成20年9月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

#### 編集後記

あっという間に9月になりました。夏があったような、なかったような微妙な年でした。8月後半から曇りや雨ばかりで、太陽が顔を出しません。どうしたのでしょうか？ これからは、味覚とスポーツの秋なので、からっとした秋晴れを期待したいものです。（石渡）